

『大画面薄型テレビ満足度調査』 満足度トップは東芝「REGZA」シリーズ

株式会社アスキー・メディアワークス(本社:東京都新宿区 代表取締役社長:高野 潔)のリーサーチ・メディア部門である「アスキー総合研究所」は、『大画面薄型テレビ ユーザー満足度調査』を実施し、調査結果をまとめましたのでお知らせします(画面サイズ35型以上の地デジ対応液晶・プラズマテレビ)。

製品を実際に使用した際、その使用感が期待どおりだったときの「満足感」、あるいは期待以下だったときの「がっかり感」について、詳細なアンケートを実施いたしました。今回調査した画面サイズ35型以上の大画面薄型テレビは、売れ筋の37型をはじめ、42型や47型なども購入しやすい価格帯に低下してきており、メーカーもユーザーもいま最も注目している、2011年に向けて主戦場となりつつあるクラスです。

【1】総合満足度は東芝の「REGZA」シリーズがトップ

総合満足度トップ5ランキング

順位	ブランド名	メーカー名	総合満足度(購入後)
1	「REGZA」シリーズ	東芝	52.1ポイント
2	「BRAVIA」シリーズ	ソニー	51.1ポイント
3	「VIERA」シリーズ	パナソニック	50.0ポイント
4	「AQUOS」シリーズ	シャープ	48.1ポイント
5	「Wooo」シリーズ	日立製作所	41.4ポイント

首位は東芝の「REGZA」。外付けのハードディスクに録画できる機能が高い評価を得たことに加え、画質やリモコン・メニューの使いやすさで安定した満足度を得た。

【2】今後の差別化のカギを握るのは付加機能

画質では各シリーズともに大きな満足度の差はなかった一方で、外付け・内蔵ハードディスクへの録画機能など、テレビ放送を映す能力に加えた付加機能の部分では評価に差が見られた。

【3】ユーザーは起動・チャンネル切り替え速度の改善も希望

電源を入れてから起動するまでの時間や、リモコンでチャンネルを切り替えた際のレスポンスについては総じて評価が厳しく、今後改善が望まれる部分となっている。

【報道関係のお問い合わせ】

株式会社アスキー・メディアワークス アスキー総合研究所 (TEL:03-6866-7338)

なお、本リリースに掲載しておりますデータを記事にて引用される場合は、「アスキー総研調べ」と出典を明記していただきますようお願いいたします。

『大画面薄型テレビ ユーザー満足度調査』

株式会社アスキー・メディアワークス
アスキー総合研究所

調査概要

- (1) 調査期間：2008年12月16日(月)～12月22日(月)
- (2) 調査方法：Webアンケート
- (3) 調査対象：アスキー総研アンケートモニター
(週刊アスキー、アスキー・ドットPC、ビジネスアスキー、マックピープル各誌読者など)
- (4) 有効サンプル数：573件
- (5) 対象テレビ：地上デジタル放送対応の液晶・プラズマテレビ(画面サイズ35型以上)
- (6) 満足度とは：アンケートでは、各製品の個別の機能および製品全体について、購入決定時と購入後それぞれの評価を「とても良い」「良い」「ふつう」「悪い」「とても悪い」で表してもらい、順に100ポイント、50ポイント、0ポイント、マイナス50ポイント、マイナス100ポイントと数値化して集計した。また、購入後の全体的な満足度をその製品の総合満足度とした。

項目別満足度(総合満足度上位5シリーズの、主要な項目別の購入後満足度ランキング)

映像の画質

順位	メーカー名	シリーズ名	満足度 (購入後)
1	シャープ	AQUOS	63.0
2	東芝	REGZA	62.8
3	パナソニック	VIERA	60.1
4	ソニー	BRAVIA	58.9
5	日立製作所	Wooo	50.0

シャープのAQUOSがトップで、以下REGZA、VIERAと続くが、各シリーズとも十分に高い評価を得ており、決定的な差とはなっていない。

リモコン・メニューなどの操作のしやすさ

順位	メーカー名	シリーズ名	満足度 (購入後)
1	ソニー	BRAVIA	33.3
2	東芝	REGZA	25.5
3	パナソニック	VIERA	18.9
4	シャープ	AQUOS	18.4
5	日立製作所	Wooo	18.3

十字型のメニュー画面「クロスメディアバー」を搭載するソニーBRAVIAやリモコンに定評のある東芝REGZAが、他の3シリーズよりも高い満足となった。

付加機能

順位	メーカー名	シリーズ名	満足度 (購入後)
1	東芝	REGZA	59.8
2	日立製作所	Wooo	51.9
3	パナソニック	VIERA	29.4
4	ソニー	BRAVIA	27.3
5	シャープ	AQUOS	25.0

外付けハードディスクに録画できる東芝REGZAとカートリッジ型のハードディスクを備える日立Woooの満足度が、他の3シリーズを大きく上回った。

起動やチャンネル切り替えなどの動作速度

順位	メーカー名	シリーズ名	満足度 (購入後)
1	東芝	REGZA	22.3
2	ソニー	BRAVIA	5.7
3	パナソニック	VIERA	-5.2
4	シャープ	AQUOS	-1.3
5	日立製作所	Wooo	-14.3

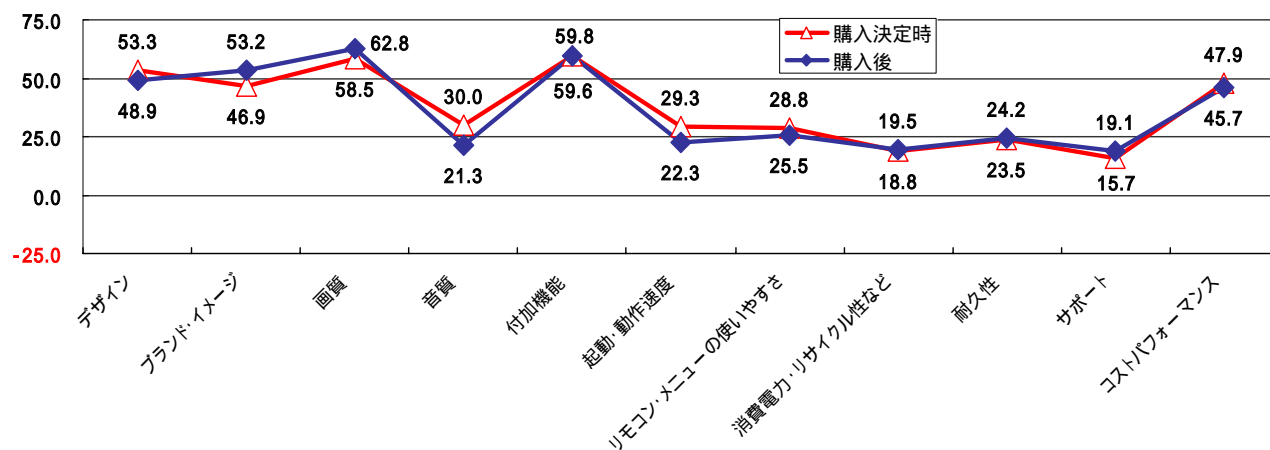
東芝REGZAが一步抜きん出ているものの、全体的に評価が厳しい。個別コメントでも、チャンネル切り替え速度の遅さについて言及が多かった。

各シリーズの詳細な満足度

【1位】東芝「REGZA」シリーズ

外付けハードディスクへの録画機能が極めて高い満足度

総合満足度	52.1ポイント (購入後)	55.3ポイント (購入決定時)
--------------	-----------------------	-------------------------

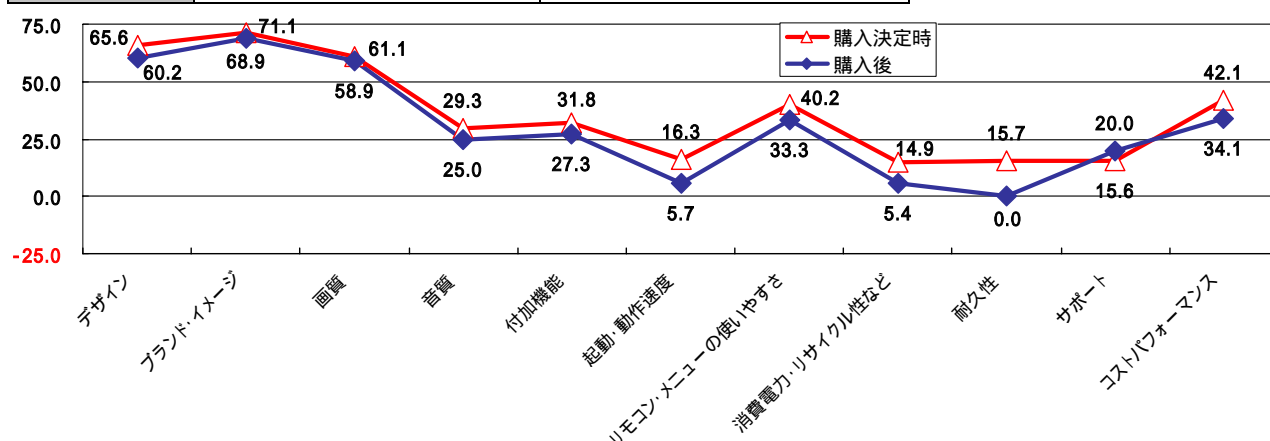


画質や音質といったテレビの基本部分では十分な満足度。さらに、「購入検討時から、外付けハードディスクに録画できるREGZAしか考えていなかった」(55歳男性)など、ハードディスクレコーダがなくとも、USBやLAN経由で接続した外部のハードディスクに録画できる機能を備えていることが高く評価され、付加機能の部分で今回の上位5シリーズ中最も高い満足度を得た。全シリーズで厳しい評価となった起動・動作速度についても、REGZAは比較的高い評価となっており、これらの要因が総合満足度トップに結びついた。

【2位】ソニー「BRAVIA」シリーズ

ブランドイメージはやはりソニー。メニュー画面も高評価

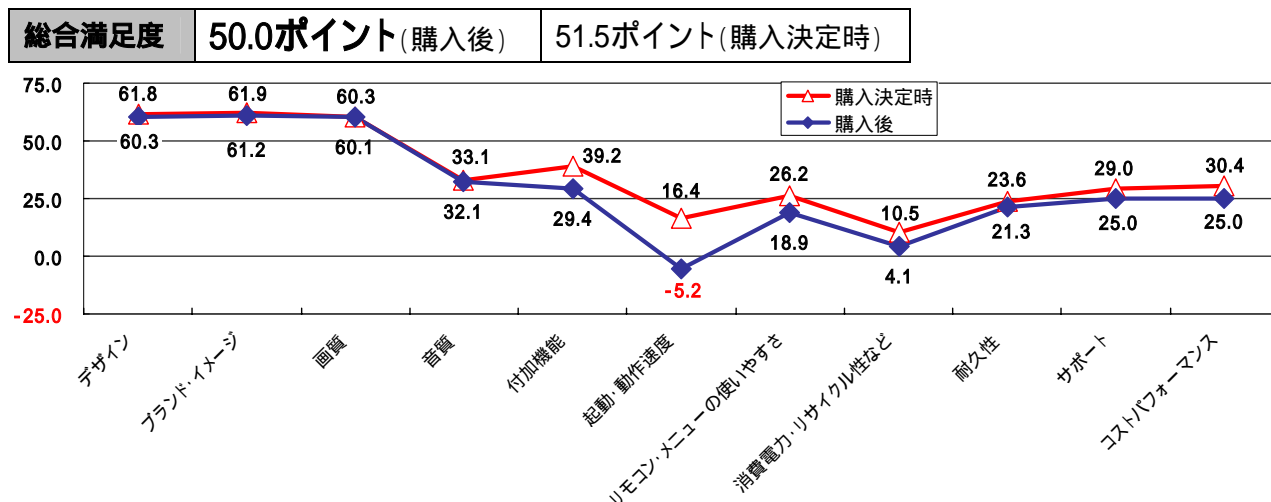
総合満足度	51.1ポイント (購入後)	54.4ポイント (購入決定時)
--------------	-----------------------	-------------------------



ブランドイメージでトップ評価。また、多くのBRAVIAは「クロスメディアバー」(XMB)という十字型のメニュー画面でチャンネルの切り替えや外部入力を選択、ネット接続といった機能の選択を行えるようになっており、リモコン・メニューの使いやすさでも5シリーズ中首位の満足度となった。一方、他シリーズに比べてHDMI端子が少ないというわけではない(2~4端子を装備)が、BRAVIAユーザーには外部機器と接続するニーズが高いのか、「HDMIがもう1つあればさらによかった」(35歳男性)などといったコメントが目立った。

[3位] パナソニック「VIERA」シリーズ

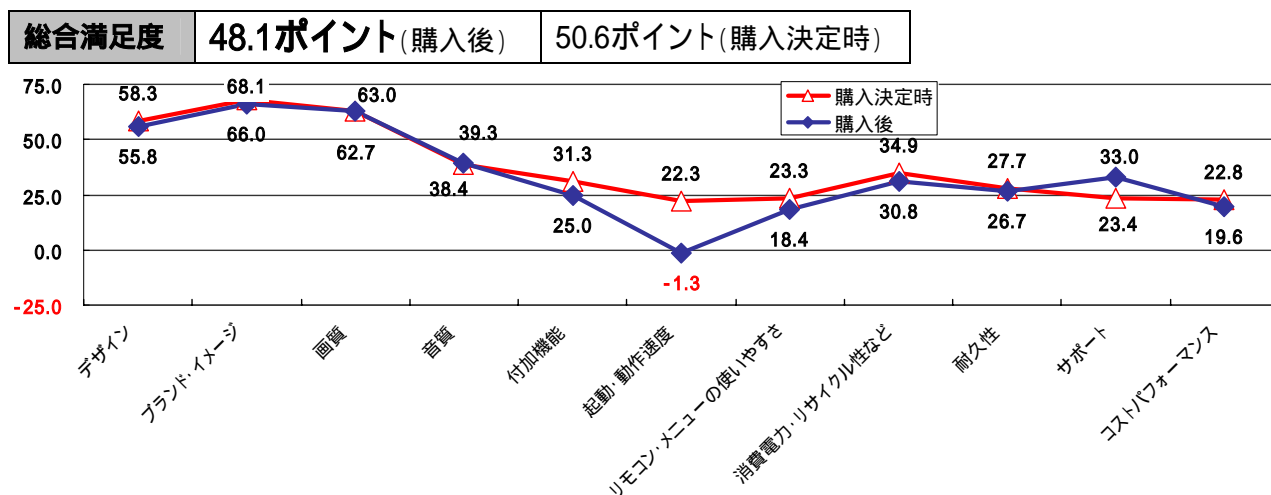
プラズマならではの画質や応答速度に満足



画質・音質といったテレビの基本機能の部分での評価は十分以上で、「動きの速い映像はやはりプラズマ」（48歳男性）といった声が多かった（35型以上のVIERAのラインナップは大半がプラズマテレビであり、今回の調査結果も9割以上がプラズマテレビだった）。その一方で、「冷却ファンからの発熱が気になる」（31歳男性）、「消費電力が大きい」（50歳男性）というコメントも少なからずあった。また、起動・動作速度についての満足度が購入決定時に比べて購入後に大きく下落しており、「リモコン操作に対する反応が遅い」（45歳男性）ことを気にしている意見もあった。

[4位] シャープ「AQUOS」シリーズ

“亀山産”液晶が画質面でトップ評価

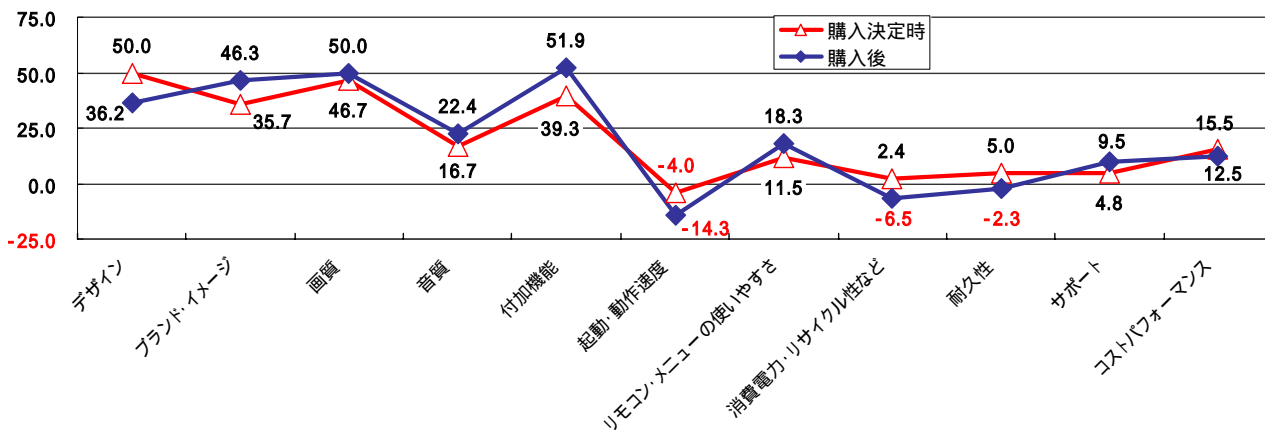


画質面での満足度はトップ。ブランドイメージの評価もソニー「BRAVIA」に次いで高く、「世界の亀山モデルを購入できたこと」（33歳男性）に最も満足しているというコメントもあった。消費電力・リサイクル性や耐久性、サポートなどの評価も5シリーズ中首位で、液晶テレビのトップブランドの面目躍如といったところ。一方で起動・動作速度の満足度は購入後に大きく下落している。また付加機能の評価も5シリーズ中最下位だが、これはブルーレイディスクに録画できるAQUOSが登場したことで、今後の向上が見込まれる。

[5位] 日立製作所「Wooo」シリーズ

カートリッジ型ハードディスクへの録画が予想以上に便利

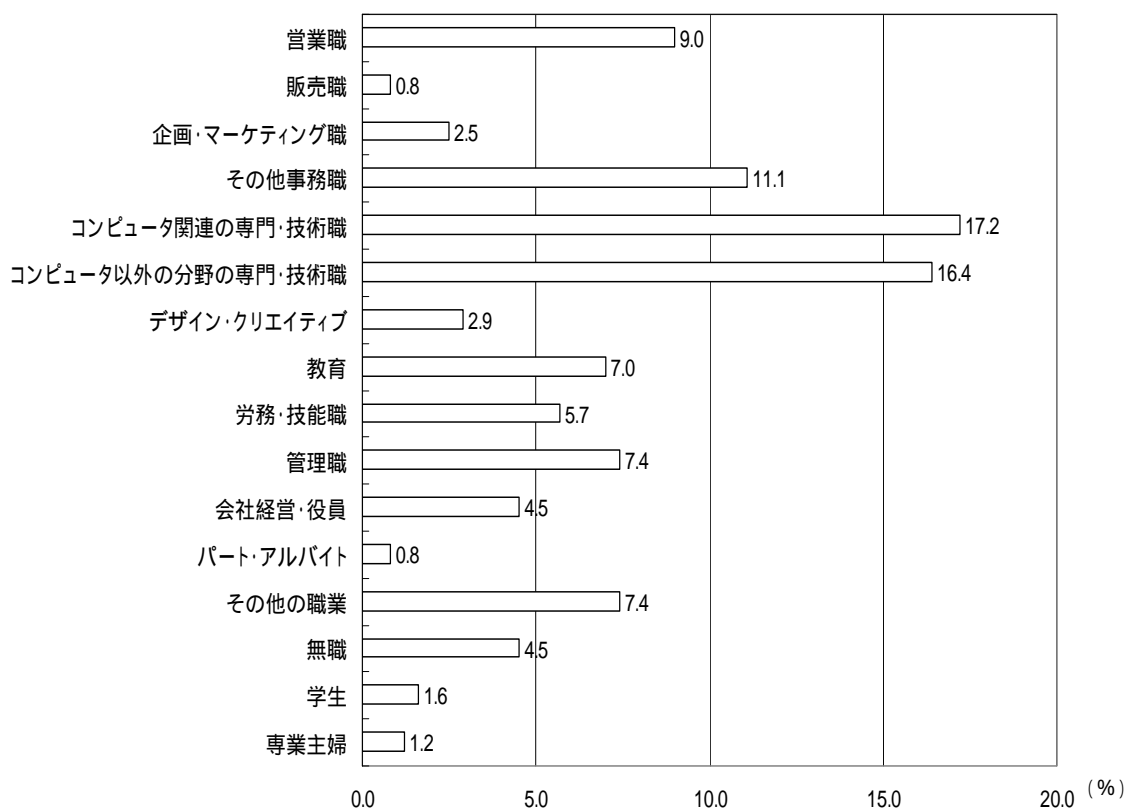
総合満足度	41.4ポイント(購入後)	46.7ポイント(購入決定時)
-------	---------------	-----------------



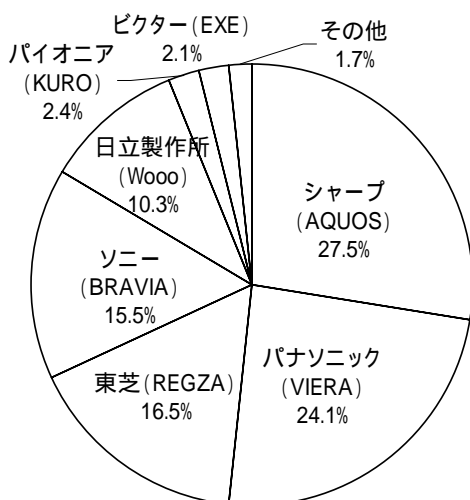
画質その他では十分な満足度だが、特に付加機能については、購入決定時の39.3ポイントに対して購入後に51.9ポイントと、満足度が大きく上昇している。「内蔵ハードディスクへの録画機能は不要だと思っていたが、実際に使ってみるとDVDレコーダへ録画するよりもよほど便利で、使い勝手がよい」(46歳男性)など、カートリッジ型で取り替え可能なハードディスクユニット「iVDR」へ録画できることが高い評価を得ており、そのことがブランドイメージをも押し上げている。

調査対象者プロフィール

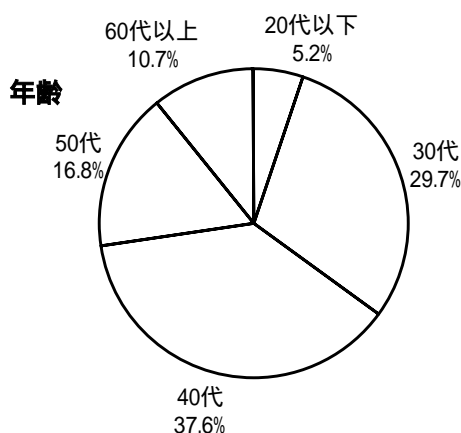
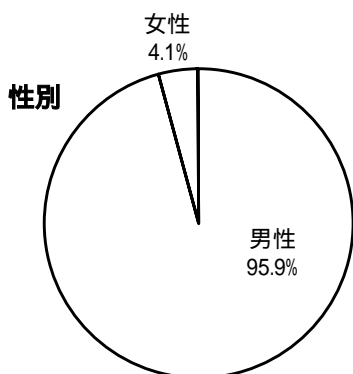
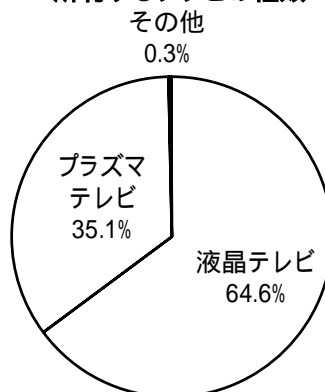
職業



所有するテレビのメーカー(ブランド)



所有するテレビの種類



【アスキー総合研究所】 URL:<http://research.ascii.jp/>

アスキー総合研究所は、株式会社アスキー・メディアワークスの法人向けリサーチ・メディア部門です。コンテンツ、カルチャー、およびWeb、PC、携帯電話などによるコミュニケーションを対象として、法人向けに調査・分析データの販売を行っています。

〒160-8326 東京都新宿区西新宿4-34-7 住友不動産西新宿ビル5号館
株式会社アスキー・メディアワークス アスキー総合研究所 TEL:03-6866-7338

【株式会社アスキー・メディアワークス】 URL:<http://asciimw.jp/>

出版を基盤としながら、コンテンツをクロスメディア、映像までメディアを超えてプロデュースするコンテンツ・プロデュース・カンパニーです。『アスキー』『電撃』という2つのブランドを軸として、(Entertainment) (Business) (Culture) という3つの事業領域にコンテンツを発信しています。

2008年4月、株式会社アスキーと株式会社メディアワークスが合併いたしました。

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社アスキー・メディアワークス
アスキー総合研究所 TEL:03-6866-7338